

## 編集後記 そんなに早送りしなくても

だいぶ先だと思っていたサッカーのワールドカップですが、あっという間にやってきた気がします。

素晴らしい熱戦の数々をできるだけしっかり味わいたいと楽しみにしています。(^^)/

それにしても、街のあちこちにクリスマスのイルミネーションが現れると、一年の締めくくりが迫ってきている感じがして何だかせわしないですね。「師走」と表現するのもわかるように思います。

せわしないといえば、日本のポップソングのイントロが短くなっているそうです。

若い人はサブスクリプションで音楽配信を聴くので、歌い出しやサビまで時間がかかる曲は、待ちきれずに早送りされたり、スキップされたりするのがその理由らしいですね。

これも時代の流れなのかもしれませんが、そんなに早送りしなくてもって少し寂しい気がします。

昔は、ピンクレディの「渚のシンバッド」とか、久保田早紀さんの「異邦人」とか  $\sigma^{\wedge}_{-}\wedge$ ;

イントロが流れるだけで気分が高揚した歌がいっぱいありました。

子どもの頃見ていたアニメの主題歌もそうです。例えば、カルピス子ども劇場。

アルプスを背景にホルンで始まる演奏が印象的だったのは「アルプスの少女ハイジ」でした。

それから、明るくラララ、ラララ・・・と始まる「フランダースの犬」。少女と一緒にパトラッシュの回りを主人公のネロが嬉しそうに踊る能天気で陽気な曲調です。「パトラッシュと歩いた 空に続く道を」という歌詞が、実はとても切ないことに気づいたのは結構大きくなってからでした。それからは、「ラララ・・・」とイントロの出だしを聞いただけでジワッときてしまいます。もう「フランダースの犬」ではなく「パプロフの犬」ですわ。(T\_T)

映画の映像を無断で使用し、字幕等をつけて10分程度にまとめてストーリーを明かす違法な「ファスト映画」の投稿者2人に対し、11月17日に東京地裁が5億円の賠償を命じました。投稿者の著作権法違反はもちろんですが、見る方も見る方で人生の機微を描く映画を10分で観た気になるとは、残念な気がします。時間や金銭的には得しているのかもしれませんが、こんなことが蔓延、浸透してしまえば、自分本位で人の痛みがわからない心の貧しい人を増やしていくことになるように感じています。

表紙の写真は徳島の**大塚国際美術館**。実際に訪れるまで僕は**大塚国際美術館**のことを世界の名画を再現している美術館とぼんやり知っている程度でした。実際に行ってみると、よくここまでの規模の芸術作品を精巧に原寸大で再現できたものだと、時間が経つのも忘れて鑑賞を楽しみました。



あの「フランダースの犬」の最終回、クリスマスイヴの夜、画家を目指していたネロとパトラッシュが最期にやっと見ることができた**ルーベンス**の絵も迫力ありました。

←ルーベンス「キリスト昇架」(大塚国際美術館にて)

一般の美術館であれば会話することさえも憚れるので、子どもをなかなか一緒に連れていけません。ここではそれがわりと自由です。僕が訪れた日も、小さい子ども連れの家族が何組もありましたし、陶板でできた絵画は触ることもできるので、子どもさんが不思議そうに触っていました。(^^)

日本の少子化の問題は人口減少、労働力人口減少の直接の要因で、国難と言われるくらい深刻化の一途ですが、そもそも**社会が子育てに家族に厳しければ、子どもが増えるはずはありません**。

また幼い頃から芸術に接する機会が増えれば、豊かな感性を育てることにもつながるようにも思います。

次の世代の育成のプロセスは、サブスクの音楽配信のイントロのように早送りができませんよね。

「育てる」という意味でも、手間暇かけた大塚国際美術館の試みは今更ながら素晴らしいと思った次第です。

12月といえばベートーベンの第九の時期でもありますね。できればアートもスポーツもしっかり堪能して、心に余裕のある平和な師走、素敵なクリスマスを迎えたいものです。



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



La La La La La  
Zingen Zingen Kleine Winders



まだイントロだよ

